

2022年 令和4年 壬寅  
月刊丈風 2022年1月号 記事

賀正

2022年 令和4年 壬寅 元旦

\* 2020年賀 ダウンロードで

「日本の夢」のこと。

「American Dream」や「中国夢」に比しての「日本の夢」といえるものは「平和100年・100年人生」でしょうか。

「G型ライフサイクル」 Gerontology（老年学・加齢学）に依り高年期に配慮した実人生プロセス。エリクソン以来のものが定着していて成長期・発達途上国に対して有効ですが、成熟期・高齢化先進国の実人生には別個のものがが必要です。

「晨星期」 晩年に暁に輝く星のように次の世代・時代に影響を及ぼす時期

「高齢者五原則」 21世紀の国際的潮流を「平和裏の高齢化」とみる国連は1999年を「国際高齢者年」とし、10月1日を「国際高齢者デー」とし、「高齢者五原則」を指針とするよう提案しました。

\* 2022（令和4）年に

米寿（88歳）を迎える方々

1934（昭和9）年生まれ

財津一郎（2・22 俳優） 藤子不二雄A（3・10 安孫子素雄・漫画家） 宇野亜喜良（3・13 イラストレーター） 松平直樹（3・22 歌手） 島村 宜伸（3・27 政治家） 坂口力（4・1 政治家） 堀田力（4・12 弁護士・福祉事業家） 田原総一郎（4・15 評論家） 宝 田明（4・29 俳優） 広中和歌子（5・11 政治家） 中村メイコ（5・13 女優） 堤義明（5・29 実業家） 田中克彦（6・3 言語学者） 山田太一（6・6 脚本家） 宇能鴻一郎（7・25 作家） 司葉子（8・20 女優） 小中陽太郎（9・9 作家） 樋口陽一（9・10 憲 法学者） 筒井康隆（9・24 作家） 美智子上皇后（10・20 明仁上皇） 東陽一（11・14 映画監督） 日比野弘（11・20 ラグビー）

\* 2022（令和4）年に

傘寿（80歳）を迎える方々

1942（昭和17）年生まれ

角川春樹（1・8 実業家） 小泉純一郎（1・8 政治家） 嵐山光三郎（1・10 作家） 中 谷巖（1・22 経済学者） 今井通子（2・1 登山家） 坂口征二（2・17 プロレスラー） 秋山亮二（2・23 写真家） 山下洋輔（2・26 ピアニスト） 北の富士克昭（3・28 大 相撲） 林海峯（5・6 囲碁） 山東昭子（5・11 政治家） 大竹英雄（5・12 囲碁） 小沢一郎（5・24 政

治家) 北野大 (5・29 化学者タレント) 三枝成彰 (7・8 作曲家) 佐々木毅 (7・15 政治学者) 中尾彬 (8・11 俳優) 松本白鸚 (8・19 歌舞伎役者) 青木功 (8・31 プロゴルファー) 尾上菊五郎 (10・2 歌舞伎役者) 正田修 (10・11 実業家) 島田祐子 (10・12 声楽家) 日野皓正 (10・25 ジャズ奏者) 浜畑賢吉 (10・29 俳優) 南部鶴彦 (11・6 経済学者) 寺田農 (11・7 俳優) 十朱幸代 (11・23 女優) 藤井林太郎 (12・16 実業家)  
\* 2022 (令和4) 年中に米寿・傘寿を迎える方々 ダウンロードで

.....

\* 2022・1・3～月曜掲載

「日本(人)の夢」といえば

「平和100年・100年人生」

「American Dream」や「中国夢」に比しての「日本(人)の夢」といえば、「平和100年・100年人生」でしょうか。

いまそのプロセスを70歳「古希」で迎えた「戦後生まれ」のみなさん(1946昭和21年～1950昭和25年、934万人)が体験しつつ実現しつつ過ごしています。わたしは100歳まではなどといわず、あと25年を健丈に過ごして、2047年「日本国憲法制定100年記念国際祝典」を100歳のお仲間と主宰することに。わが国主催の今世紀最大の国際平和イベントになるでしょう。

代表して国際平和の聖火を掲げて走るのは「戦後生まれ」のみなさんの役目だとしても、それを支えるのは高齢者だし、それを引き継ぐのは若者たちです。制定70年の「憲法議論」の衆議をつくして、国民の心を揺さぶる国家事業として据えなおすことになるのでしょう。

本会は活動gとして、「2047 平和憲法100年記念国際祝典推進会議」の準備に参加します。

\* 2022・1・10～

人生100年にかんして

「七十古希」から「百齡眉寿」へ

「人生七十古来稀なり」と詠った杜甫の詩から70歳を「古希」と呼ぶようになったといいます。ですから「七十古希」は千年余の経緯をもつ四字成語なのです。

そのころ長安は安祿山軍の侵入を受けて「国破れて山河在り、城春にして草木深し」(杜甫「春望」から)といったありさま。日々を酒びたりの杜甫は、「酒債は尋常行く処に有り、人生七十は古来稀なり」と身近にある酒のツケとあり得ない長寿とを比較しているのです。杜甫は旅先で59歳で去世しています。

高級官人は70歳になると国中どこでも使える杖を拝受して「杖国」と呼ばれたといひます。日本にもどれず「三笠の山に出でし月」を想って客死した阿部仲麻呂は70を越えて生きましたから拝受したでしょう。

.....

「百齡眉寿」の「百齡」は百歳。2022年には大正11年生まれの人が百齡に達します。昭和元年生まれが96歳であと一息です。わが国では100歳以上の人が8万6510人で女性が7万6450人、男性1万0060人（2021年9月15日、厚労省）に達してなお増えつづけており、国際的に誇るべき長寿国になりつつあります。

七十歳が「古希」といわれ長寿とされてきましたから、百歳はなおはるか遠い願望だったのでしょう。老齢になると白い長毛の眉（眉雪といひます）が生えて長寿の特徴となります。村山富市元首相のような。眉雪の方に「百齡眉寿」を伝えてあげてください。

.....

同じ唐代の人で書家として知られる虞世南は、「願うこと百齡眉寿」（琵琶賦）と記して百歳を願いましたが、80歳を天寿として去りました。「七十古希」の杜甫は59歳、「百齡眉寿」の虞世南は80歳でしたから、長寿への願望は遠くに置いたほうがいい。

人生100年時代。いまや稀でない「七十古希」を迎えたら、次にはまだ稀な「百齡眉寿」を目標にして日復一日を過ごすことをおすすめします。

\*2022・1・11 成人の日

若いきみたちに（亜起良のつぶやき）

### 「平和な国」づくりの世代伝承

だれもが「七十古希」（人生七十古来まれなり・杜甫）まで生きられる史上まれな長寿の時代。長寿を得た人びとが70年余り、この国の「戦後平和」を史上まれな長さに保持してくれているのです。「戦禍と戦後復興」を体験した人びとの胸中に刻まれた外には見せないつらい記憶の存在。その一人ひとりのつらい記憶は、できることなら「平和」に生きるきみたちに知らせたくない記憶として胸の奥に留めてきたのです。

黙したまま去世してゆく先人に、兵役もなく「平和」な時代の記憶しか持たないきみたちは、深く感謝しなければ。先の世界大戦（犠牲者6000万人+）での敗戦国日本（犠牲者310万人）には、人類の悲願として、国際的紛争の解決に武力を用いないという**国際的偏務**としての「恒久平和」の国づくりが託されているのです。その実証であり誇るべき事例がきみたちの人生なのです。

[2022・1・11「平和な国」づくり](#) ダウンロードで

\*別項 2020・8・17 戦後75年目の「終戦記念日」にちなんで

「現役学生」であること 自衛と軍備

漢語の「現役」の原義は兵役に服していること、軍務についている人のことです。ですから「現役学生」といえば兵役にかかわっている学生のことを意味します。ただし日本語での意味は異なっています。大戦後の国際的偏務としてひたすらに「非軍事平和国家」をめざすわが国では、単に学生であることにいい、上の漢語に合わせれば積極的に「平和の国づくり」にかかわっている学生という意味になります。

[2020・8・17「現役学生」1](#) ダウンロードで

\*2022・1・17～月曜掲載

「ステイホーム」をチャンスに

「tel&mail (テル&メール) 新三密活動」のすすめ

いま高齢者は、コロナ弱者として不要不急の外出を止められ、三回目のワクチン接種を待ちながら「ステイホーム」しています。「日曜日は一日だけ」というみなさんにとっては辛いというよりも惜しい。で、リアルとデジタル(オンライン)とともに、同時発生的に期待されているのが「tel&mail (テル&メール) 新三密活動」です。

電話によってことばを交わすことで、生きていることの輝きを認めあい、お互いの願いの涯を確かめあい、安堵しあえる。これはコロナ禍下でのチャンスです。「三密(密閉・密集・密接)」の回避により屋外で失った「密による温かな交流」を屋内からの発信でとりもどし、あわせて「新しい日常(ニューノーマル)」をつくる契機にできるのですから。

.....

「新三密」(親密・綿密・内密?)がよいのですが、「元三密があつて新三密ではいささか過密」というご意見もあつて、ここは「新密活動」一筋ということで。誰に対しても親密に接して、綿密に課題を共有して、少しばかり内密な話題を添えて。一人ひとりの力は水玉のように小さくとも、それが重なり合つて地域を覆い広がる。遠からず「高年世代」による「高年ネット社会」が形成されるでしょう。円熟した地域文化環境を創出することに。閑居しているみなさんが日々「新密耳福」のひとつきを過ごすことから始まります。

\*2022・1・24～月曜掲載

年行事・高齢社会フォーラム 内閣府主催

令和3年度

高齢社会フォーラム オンライン

令和4年1月17日(月) 13:00～16:30

『リアルもデジタルも』いきいきとつくる

豊かな長寿社会

[高齢社会フォーラム 202001](#) ダウンロードで

コロナ禍のつづくなか、オンラインで3分科会に分かれて実施されました。  
基調講演は近藤勝則氏、コーディネーターは第1分科会樋口恵子氏、第2分科会松田智生氏、  
第3分科会澤岡詩野氏。

\* 2022・1・31～月曜掲載

## 「民主主義」と「中国的民主」 の差異にかんして

去る12月9日から10日にかけて バイデン米大統領が主宰した「民主主義サミット」  
では、中国の「民主」を“専制主義”として西側の「民主主義」の優位性を示そうとしたも  
のでした。中国は12月4日に白書「中国的民主」（国务院新聞弁公室）を発表して詳細に  
特徴と両者の差異を論じています。

中国ではすでに2000年前に「民為邦本」（『書経「五子之歌」』から）の民本思想が培  
われ、その実現の道程は障害や挫折をともなう「艱難險阻」（『春秋左氏伝「僖公二十八年」』  
から）であることも熟知していたのでした。が、全土統一の際に機能した一家族の権力によ  
る封建専制（各王朝）のもとで、広範な労働人民は長く最低層として圧迫と搾取を受けてき  
ました。

.....

**辛亥革命から110年**、馬克思（マルクス）主義に「中国的民主」の覚醒を受けた共産党  
の結党から100年。「民主」は全人類の共同の価値であり、国際的な政治文明は「各有千  
秋」の国々による多様で多彩な”文明の百花園”のようなもので、中国は「安居樂業」の小康  
社会を実現して、さらに果てしない「民主」の探索と実践に「艱難險阻」を乗り越えて進  
もうというのです。（連載「円水社+」四字熟語の愉しみ「艱難險阻」から）

中国には反対党も野党もなく、あるのは「共産党が領導する多党派合作・多党派参政」と  
言い切られてしまうと、絢爛たる”文明の百花園”はむずかしいのではないかと、民主主義の  
雑草地からはひとことあるのです。